第 71 号

都中英研だより

東京都中学校英語教育研究会
会　長　石鍋　浩
（港区立御成門中学校長）

改革の時期だからこそ、都中英研で学びませんか

東京都中学校英語教育研究会
会長　石鍋　浩

平成 29 年度東京都中学校英語教育研究会（以下、都中英研とする。）会長を拝命いたしました港区立御成門中学校長の石鍋浩です。前、飯島光正会長の意をつぎ、都中英研のさらなる充実・発展のために努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、平成 29 年 3 月には、次期学習指導要領が告示されました。ご承知の通り、次期学習指導要領のもとでは、小学校第 3 学年から週 1 時間の外国語（英語）活動、第 5 学年から週 2 時間の外国語（英語）科が行われます。いよいよ小学校においても外国語（英語）が教科となります。現在生徒は、中学入学までに、外国語（英語）活動を 2 年間で 70 時間経験しているわけですが、今後は、4 年間で外国語（英語）活動と外国語（英語）科を合わせて 210 時間学習するわけです。学校現場で、「次期学習指導要領のもとでは、小学校は大きく変わるけど、中学校はあまり変わらない。」との声を聞くことがありますが、これは大きな誤りであることがわかるはずです。

一方、マスコミ報道もされておりますが、平成 32 年度（2020 年度）から大学入試が変わります。大学入試センターが作成するマークシート方式でなく、「話す」「書く」力を測るために民間試験を導入します（導入後数年は従来型の試験と併存させるようです）。当然、高校の授業方法も大きく変わっていくことが予想できます。

英語教育は日本の教育の歴史の中で最大の改革期を迎えます。この時期に、小学校、中学校、高等学校が一体感をもって英語教育の改善・充実を図っていくことは私たちに与えられた大きな使命です。このような中、都中英研は、教員の授業力を向上させるべく、6 つの部の中でワークショップを企画・開催しており、年々、参加者も増加をしております。これからは、英語教育改革を見据えながら、ワークショップの内容をさらに発展させるとともに、小学校、高等学校との接続も進めてまいります。各種事業の見直しと改善も必要となってまいります。都中英研が教育改革の先陣を切れるよう、日々研鑽を積み、前進していく所存です。関係の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに東京都内の英語科の先生方にお願いです。ぜひ都中英研の一員になって、一緒に学んでいきましょう。そして、これからの日本の英語教育、東京都で英語を学んでいる子供たちのために、大いに力を発揮していきましょう。お待ちしております。

東京都中学校英語教育研究会地区幹事会

1 地区幹事会の概要

8月25日（金）、港区立御成門中学校で、地区幹事会が開催されました。東京都英語教育研究会では、区市町村を60地区に分け、各地区から部長と幹事を選出しています。この幹事会は、年に1度、8月下旬に各地区の部長・幹事が集まり、次のような内容で行われています。

（1）各地区の情報交換を行う。

（2）都中英研各部からの連絡や報告を聞き、各地区に伝達するべき内容を確認する。

（3）講師を招聘して、英語教育に関する見識を高める講演会に参加する。

今年度も、例年通りの内容となり、講演会には、教育庁指導部指導企画課・指導主事の関谷さやか先生をお招きして講演をしていただきました。

2 講演会の要旨

Welcome to Tokyo を活用した授業実践について

教育庁指導部指導企画課指導主事　**関谷さやか**

1 Welcome to Tokyo を使用した授業デモンストレーション

関谷先生が教師、参加者が生徒になり、Welcome to Tokyo の Topic 10 Robots と付属 DVD を使い、英語のみを使ったデモンストレーションが行われました。先生が、現場で教えられていたときの実践を想起させるすてきなデモンストレーションでした。授業後、付属している指導書や教材データ資料、映像資料（DVD）も、活用してほしいというお話がありました。

2 講演より一部抜粋

(1) 英語教育に対する国や東京都の動向と中学校英語教育の課題

国際競争力の低下、若者の内向き傾向、英語力等の英語教育に関わる現状を踏まえ、国では、大学入試での4技能評価、学習指導要領の改訂などが行われています。新学習指導要領では、小学校から高等学校段階の学びを接続させるとともに、外国語を使って何ができるようになるかを明確にするという観点から、国際的な基準である CEFR などを参考に、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の五つの領域別に英語の目標を設定しています。中学校では、考えや気持ちを伝え合う対話的な活動を重視すること、授業は外国語で行うことを基本とする、学習した語彙・表現などを実際に活用する活動を充実させることにより、言語活動の実質化を図るとしています。都では、「東京都教育ビジョン」として、「世界で活躍できる人材の育成」のための施策を掲げています。

中学校英語教育の課題は、新学習指導要領への対応と生徒の英語力向上に向けた指導改善と言えます。

(2) Welcome to Tokyo の活用について

Welcome to Tokyo のねらいは、①日本・東京の文化、歴史などの理解の促進　②英語によるコミュニケーション能力の伸長　③オリンピック・パラリンピックに向けた国際理解教育　の推進の3つです。活用の際に重要なのは、内容の理解にとどまらず、英語を用いて情報を発信する、自己表現を行うという点です。そのために、さまざまな言語活動が配置されており、生徒たちが積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と技能を育成するものとなっています。

本教材のそれぞれのトピックでは、映像資料等を通じて Key Sentence を学びます。Activity では、ペアワークやグループワークを行います。Tokyo Information では、トピックについてさらに深く学んでいきます。Project では、自分で調べたり考えたりしたことを発表する形式になっています。

実際には、学校の実態に応じて様々な方法が考えられます。教科書等との関連を図りながら、3年間を通じて計画的に御活用し授業における指導改善につなげていただければと思います。

研究部報告

第15回研究部ワークショップ

第1回　8月3日(木)　千代田区立九段中等教育学校

①「辞書指導（中1～中3）」……壽原友理子（都立両国高等学校附属中学校）
②「帯活動から繋げるパフォーマンステスト実践例」…藤野　康明（多摩市立多摩中学校）
③「3年間の語い指導」……水嶋　諒（江東区立深川第四中学校）

参加者：60人　会場の広さにすると少なめだったが、参加者に意欲があり、盛況だった。

第2回　8月10日(木)　豊島区立池袋中学校

①「読むことから語い指導を考える（中2～中3）」…太田　裕也（八王子市立第六中学校）
②「1時間の授業の指導手順を考える……渓内　明（文京区立第八中学校）
（導入～音読、復習まで）（1年）」
③「英語で行うコミュニカティブな授業作り（1・2年）」…関口　智（江戸川区立清新第一中学校）

参加者：64人　初めて使用する会場だったが、スムーズに進行することができた。

第3回　8月22日(火)　品川区立荏原第六中学校

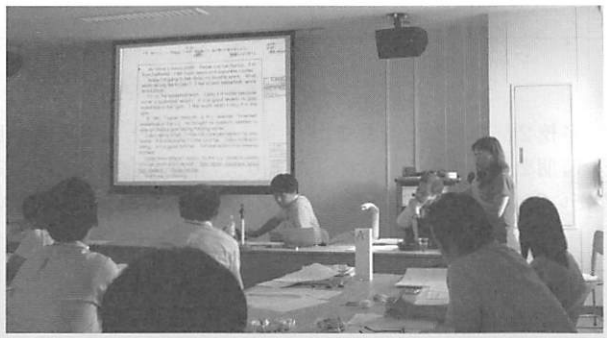
①「音、リズム、ジェスチャーを使った語い、音読指導（1年）」……佐藤　優（多摩市立鶴牧中学校）
②「教科書を使った語い指導・辞書指導（2・3年）」……上尾栄美子（足立区立第五中学校）
③「【中1ギャップ解消】を目指す教科書を開く前のリタラシー指導」……岡﨑　伸一（品川区立荏原第六中学校）

参加者：54人　3回参加された先生もいた。3日間で175人の先生方の参加があった。

調査部報告

調査部夏期ワークショップ
日　時：平成29年8月24日（木）
会　場：千代田区立九段中等教育学校
講　師：玉川大学文学部　准教授　工藤　洋路　先生
講　義：読むことに関するテストづくり
参加者：37人
内　容：8月24日、九段中等教育学校を会場に調査部夏期ワークショップを実施した。参加者は37人で、他部のワークショップと比較すると40人定員は小規模である。これには調査部なりの理由がある。それは、受講者に所属校で作成した定期テスト問題を持参することをお願いしているからである。各自が持ち寄った問題を共有して、改善のための検討をするには数を絞らざるを得ない。具体的に検討するには規模が小さいほうがよいが、今回のように「読むこと」の問題が『総合問題』になりがちであるという課題を改善するには、できるだけ多くの参加者と共有したい内容でもある。

午前中には意見交換も交えた講義、午後からは、今回も各自が持ち寄った問題について、小グループで作問の意図などを共有するとともに、各グループで『何のためにこのreading問題があるのか』を設定して、問題を改善する時間を長くとった。特に、どうすればよりオーセンティックなテストに改善できるのか、調査部員のアドバイスのもと活発な意見交換が展開された。最後に各グループによる改善問題のプレゼンのあと、工藤洋路先生（高川大学准教授）から具体的な助言をいただいた。また、本多敏幸先生（九段中等教育学校指導教諭）には、ご自分のテストをご披露いただいた。お二人の指導・助言や調査部員との協議で2学期以降の作問やテストデザインが改善されることを切に願うものである。



今回で5回目になる調査部のワークショップは、自分が作成した問題を持参するという条件があるため、ハードルの高い研修である。それでも初回から毎回参加してくださる受講者と手弁当でご指導してくださった根岸先生、工藤先生のお力添えによって継続できている。その過程では、経験年数の少ない調査部員も自分なりのアドバイスをして、成長してきたわけであり、受講者及び部員にとってwin-winのワークショップあると言えよう。

事業部報告

○TEACHERS' SUMMR WORKSHOP 2017

日　時：平成29年8月18日（金）　9：30～16：00
会　場：目黒区立目黒中央中学校
講　師：青梅市立泉中学校　　柳町　啓次　先生
　　葛飾区立新小岩中学校　　伊東　卓思　先生
　　明治学院大学文学部非常勤講師　田口　　徹　先生
内　容：**午前の部**　柳町先生は、東京教師道場で学んだことによって、授業がどう変化したかを話してくださった。「生徒に考えさせる授業」「目標から逆算した授業計画」など、授業に生かしている点は大いに参考になった。
　伊東先生は、教科書の１セクションをどのように教えるかについて、Oral Introduction を中心に話してくださった。生徒の言語活動のモデルになるような Oral Introduction という観点を学ぶことができた。
午後の部　田口先生は、新学習指導要領や大学入試改革に触れながら、英語教師としてどのような考えや心構えで仕事をしていくべきかについて、豊富な経験に基づいて話してくださった。「私生活を大切に」「目の前の生徒を大切に」という言葉は、多忙であっても心に留めるべきだと思う。
参加者：56名

平成29年度　プロフェクトチーム部研修会

日　時：平成29年8月9日（水）　14時00分～16時30分
会　場：清瀬市生涯学習センター
講　師：第一部　佐藤　順一　副校長（墨田区立寺島中学校）
　　第二部　太田　　洋　　先生（東京家政大学　教授）
参加者：37人
内　容：**第一部　ＰＴ部CAN-DOリストの説明**
　PT部が4年間研究し、作成したCAN-DOリストについてのねらいや活用などを授業の様子を参考に説明した。
第二部　講師の先生からCAN-DOリストの効果的な活用についての講義
　講師の太田先生から「CAN-DOリストは作成して終わりではない。CANにするために指導する側の工夫・改善につなげるためであり、何度も見直す必要がある。」、「CAN-DOリストを作成したら、End-productを作る。」を中心に、ユーモアを交えながら分かりやすく講義していただいた。実践している指導法についてペアで意見交換をする時間が何回かあり、参加者の方から「沢山の情報を得ることができ、二学期の授業に活かせる。」、「指導のヒントを得た。」の言葉を多々いただいた。短時間ではあったが充実した研修会になったことを確信した。
　参加者は40名であったが、若手教員の参加が目立ち、スキルアップへの熱い思いを感じた。

お知らせ

都中英研では、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）で著名な*Facebook を利用しております。研修会等の最新のお知らせを提供できるばかりか、投稿が可能なので、利用者間相互のコミュニケーションも可能です。ご関心のある方はアカウントを取得して、下記 URL にアクセスしてみてください。

https://www.facebook.com/chueiken.tokyo/　＊Facebook はフェイスブック株式会社の登録商標です。

また、都中英研のホームページもぜひご活用ください。本誌「都中英研だより」や年報である「中英研会報」も閲覧が可能です。ホームページは下記 URL にアクセスしてください。

http://www.chueiken-tokyo.org/

編集後記

「都中英研だより　第 71 号」をお送りいたします。各校２部の配布となります。年１回の発行となって３年目となりました。今年度、「だより」の内容を一部変更し、発行時期を早めました。秋の「だより」、春の「会報」として定着していければと考えています。発行に際し、ご協力をいただいた皆さまに感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

本誌に関するお問い合わせ先 》》》　都中英研出版部長　今本 由美子（練馬区立大泉学園中学校　副校長）
TEL：03-3925-4492　FAX：03-5387-2294